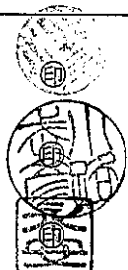


論文審査の結果の要旨

|  |               |      |   |
|--|---------------|------|---|
| 報告番号   | 博(医歯薬)甲第 769号 | 氏名   | 寶來吉朗  |
| 学位審査委員   | 主 査           | 柳原克紀 |  |
|  | 副 査           | 小路武彦 |   |
|  | 副 査           | 永安 武 |   |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>抗 melanoma differentiation-associated gene 5 (MDA5) 抗体陽性皮膚筋炎 (DM) は筋症状が軽微である Clinically amyopathic dermatomyositis (CADM) の臨床病型を示すことが多く、治療抵抗性の急速進行性間質性肺炎を高率に合併する。抗 MDA5 抗体陽性 DM の発症には二本鎖 RNA ウイルス感染の関与が想定されている。</p> <p>本研究では抗 MDA5 抗体陽性 DM における I 型インターフェロン (IFN) 測定の有用性について検討しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>2009 年 5 月から 2012 年 10 月にかけて長崎大学病院及び久留米大学病院で診断された女性 22 例、男性 8 例、計 30 例の DM 患者の血清を用いて IFN-<math>\alpha</math>、IFN-<math>\beta</math>、フェリチン及びインターロイキン (IL)-18 を測定し、これらと抗 MDA5 抗体価との相関についての検討を行った。これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>抗 MDA5 抗体陽性 DM では IFN-<math>\alpha</math> が高値であった。また既報で CADM の評価に有用とされているフェリチンも高値であった。ウイルス感染により IFN-<math>\alpha</math> の産生が誘導され、また IFN-<math>\alpha</math> がフェリチンの合成・分泌を促進することが報告されている。抗 MDA5 抗体陽性 DM の病態にウイルス感染が関与している可能性はこの研究からも裏付けられた。</p> <p>以上のように本論文は膠原病学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> |               |      |   |

(注) 報告番号は記入しないこと